



# 第3会場 ● 4F 視聴覚室

■司 会／宇都宮 忠 大分県教育庁社会教育課 社会教育主事  
原田 尚 島根県浜田市立雲城小学校 教頭

分科会の進め方 13:30~13:35

**1** 「学校支援会議」が実践する地域・家庭・学校が  
一体となった教育事業の企画と戦略 13:35~14:05

中村 浄子(長崎県南島原市) 南島原市教育委員会 地域コーディネーター

平成26年度~30年度という中期構想で取り組む地域教育力・家庭教育力の向上を目指した地域・家庭・学校が一体となった教育の推進事業である。「開かれた学校」、「地域における子どもの安全の確保」、「活力あるPTA」などを目標に、市立有家小学校をモデル校として、青少年育成協議会、警察、学校評議員、老人クラブ、民生委員など多様な地域人材を網羅した「学校支援会議」を企画・実践の核としている。具体的な実践は、オヤジの会や高校等と連携し、「地域学習であり、身近なもの」であることを原則に、「蛍のすむ有家川」、「子ども神輿」、「通学合宿」、「日曜学校」などに取り組んでいる。

**2** 小規模校における社会教育施設との学社融合プログラムの試み  
～地域は子どものために、子どもは地域を元気に～ 14:10~14:40

林田 匡(熊本県熊本市) 熊本市立中島小学校 教諭

本校は児童数76人の小規模校であり、多様な人々とのかかわりが不足している。子ども会も存在していない。そこで近隣のふれあい文化センターが有する地域資源を最大限に活用するという学社融合の視点で、キャリア教育やクラブ活動を発想した。具体的には、クラブ活動のカリキュラムに「スポーツクラブ」、「茶道クラブ」、「大正琴クラブ」などを導入した。指導者の多くはセンターの「講座生」である。また、人権教育やキャリア教育の一環で、震災後のボランティア活動に参加された方やパラリンピックの日本代表をゲストティーチャーでお招きした。様々な人との学び合いやかかわり合いにより、児童は多様な指導を受ける中で自尊感情が高まるなどの効果がみられ、「地域講師」は子どもと関わることで元気になり、社会教育施設との連携が確実に向上する等、様々な相乗効果が見られている。

ティータイム 14:40~15:05

**3** 「男のクラブ」が主催する珈琲ショップが地域をつなぐ 15:05~15:35

栢田 弘子(鳥取県倉吉市) 鳥取県倉吉市小鴨公民館 主事 男のクラブマスター

平成23年度、公民館は「男前教室」をスタート。学習の中から「男のクラブ」が誕生して、平成25年に公民館を基点として活動を開始した。「おいしい珈琲の入れ方」講座を開催し、地域の人たちに提供する過程で、「コーヒーショップおがも」の開店に繋がって行った。喫茶の開店にあわせて絵画、版画、書、俳句などの展示ギャラリーを開設する傍ら、抹茶のグループとの同時開催も可能になった。公民館との協働のなかで団塊の世代の男達がいきいきと活動し、地域の交流を主導し、無縁社会を突破する発信力を獲得している。

**4** 「良き企業人は良き社会人」の理念にもとづく  
高校生キャリア教育の「学民協働」 15:40~16:10

花蘭 伸一(鹿児島県日置市) 日章学園鹿児島城西高校 中高連絡部広報担当

地域企業などの支援を得て、高校の学科編成やコース編成をキャリア教育化して、カリキュラムを完全に実学化し、学外プロの指導をふんだんに取り入れている。例えば、トータルエステティック科、調理科、福祉科、ホテル観光科などがある。ホテル観光科の夏休み実習は40日間、もらった給料は海外実習の旅費になる、など、本格的な企業実習を組み込み、「学民協働」の実験的プロジェクトに挑戦している。教学の理念は「良き企業人は良き社会人」であり、高校生のキャリア実習は、即戦力と成り得る技能指導に重点を置き、学外実習は多様な地域貢献を含んでいる。